

校長	教頭	教頭

科目名	家庭総合		教科名	家庭（商業科・地域産業科）	
学年	2年	単位数	2単位	担当者氏名	

1 科目「家庭総合」について

学習の到達目標	1. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書	開隆堂「家庭総合 明日の生活を築く」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生、生活全般について関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身につけている。	人の一生、生活全般について見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力を身につけている。	人の一生、生活全般に関する基礎的・基本的な技能を総合的に身につけている。	人の一生、生活全般に関する基礎的・基本的な知識を総合的に身につけている。
<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 提出物 平常の学習活動 学習態度 自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> 観察力 発表表現における創意工夫やアイデア 発表表現力やレポートの文章表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 各種機器の活用能力等 被服製作作品 住生活作品 	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容 レポート内容

3. 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

4. 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価方法	100点法	5段階評価
十分に理解できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分に理解できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうちで、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期において当該科目が時数不足になった場合は「評価保留」となり「0」と表記する。

5. 年間学習計画及び評価方法等

評価の観点のポイント・・・a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1 学 期	4 6	1	家庭科を学ぶにあたって	・家庭科で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。	1 学 期 期 末 考 査	○			○
		5	第1部 第1章 自分を見つける 1. 人の一生と発達課題 2. 青年期を生きる	・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択も見通す。		○			○
		12	第2章 家族・家庭と社会 1. 現代の家族と家庭の機能 2. 現代の家族の特徴 3. 家族の法律 4. これからの家族・家庭と社会	・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女相互に協力して家庭を築き、家庭関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族・家庭に関する基礎的な法律をお学習し、現在の動きを知る。 ・家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。		○	○		○
		9	第4章 高齢者の生活と福祉 1. 高齢者とかかわり理解する 2. 高齢者の生活と課題 3. 人間の尊厳とケア 4. 高齢社会の福祉	・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者を支援する方法を具体的に学ぶ ・身近な高齢者とのふれあいの機会を探す。 ・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。		○	○		○
	7					○	○	○	○
		3	【夏休みの課題】 ホームプロジェクト（発表2時間）やんばる弁当甲子園						
2 学 期	9 10	2	第5章 共生社会における地域や家族 1. リスクに備える 2. 共生社会に向けて	・一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ・多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを具体的に考える。 ・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。	2 学 期 期 末 考 査	○			○
		24	第2部 第2章 着る 1. 人間と被服 2. 被服の選択 3. 被服の着用 4. 被服の管理	・被服のさまざまな役割を整理する ・被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い絵表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ・汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・平面構成と立体構成の違いを学ぶ。 ・正しい採寸法を知り、自分のサイズが分かる。		○	○		○
		11				○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
2 学期	12		5. 被服をつくる 6. これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 被服製作の基本的事項を確認し、自分にあった被服の製作ができる。 布を使った伝統的な生活の工夫を知り、現代に生かす。 生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 	2 学期 期末 考查	○	○	○	○
3 学 期	1 2 3	14	第2部 第3章 住まう 1. 人間と住まい 2. さまざまな住まいと暮らし方 3. 快適な住まい 4. 安全な住まい 5. まちづくりと住まい	<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能を考える。 平面図の基礎知識を得て、間取りが理解できるようにする。 ライフステージに合った住居を考える。 住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学ぶ。 バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 気候風土に応じた様々な住様式が存在する事を学ぶ。 住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。 	3 期 期 末 考 査	○	○	○	○

校長	教頭	教頭

科目名	服飾手芸		教科名	家庭（2年総合選択・全学科共通）	
学年	2年	単位数	2単位	担当者氏名	

1 科目「服飾手芸」について

学習の到達目標	手芸の技法に関する知識と技術を身につけ、手芸品を創作し日常生活に生かす能力と態度を育てる。
使用教科書	なし

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
服飾手芸に関心を持ち、意欲的に作品製作に取り組むと共に、実践的な能力を身につけている。	手芸品についての技法や特徴を理解し、自分自身の生活の中のファッションデザインに生かす能力を身につけている。	各種手芸に必要な基礎的・基本的な技能を身につけている。	各種手芸の基本形や文化・技法に関する基礎的な知識を身につけている。
<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・提出物 ・平常の学習活動 ・学習態度 ・自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書の作成 ・期限内の作品製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物 ・生徒相互の評価 ・自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容 ・レポート内容

3. 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

4. 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価方法	100点法	5段階評価
十分に理解できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分に理解できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうちで、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期において当該科目が時数不足になった場合は「評価保留」となり「0」と表記する。

5. 評価や学習に関する確認事項

- ・作品の提出・仕上がり、プリントの提出等によって総合的に評価する。
- ・実習態度、作業の進捗、実習用具の忘れ物なども評価に大きく関わる。
- ・提出期限の厳守。作品が未提出の場合は単位を認められません。

6. 年間学習計画及び評価方法等

評価の観点のポイント・・・a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点のポイント			
					a	b	c	d
1 学 期	4	2	○服飾手芸を学ぶにあたって ○基礎縫い（手縫い・ミシン）	・服飾手芸の目標や内容、学習方法について理解する。 ・基本的な縫い方を習得する 手縫い：並縫い・まつり縫い・半返し縫い ミシン：ぞうきんづくり	○		○	○
	4				○	○	○	○
	5	8	○被服検定4級の取り組み	・検定試験4級を受験することで、技術を習得する。	○	○	○	○
	6	16	○作品計画書 ・材料準備 ・作品製作	・各自で取り組む作品製作書を作成し、作品を完成させる。 作品例：七夕、ハローウィン等の飾り物、かぎ針編み、刺繍等	○	○	○	○
			【夏休みの課題】 ・何か一つテーマを決め、作品を完成させる。					
2 学 期	9	8	○被服検定3級の取り組み ・作品製作 ・作品展示	・ショートパンツの制作を通して、立体構成の特徴を理解させ、技術を身につけさせる。	○	○	○	○
	10	8	→検定受験をしない生徒					
	11	1	○作品計画書 ・材料準備 ・作品製作	・各自で取り組む作品製作書を作成する。 作品例：クリスマス、お正月、節分等の飾り物、実用品（バック・クッション・等）	○	○	○	○
	12	15	○あみもの（棒あみ、かぎあみ） ・材料準備 ・作品製作	・あみものの作品を製作する。 （マフラー、アクリルたわしなど）	○	○	○	○
3 学 期	1	5	○作品発表会、評価会	・家庭科室を利用し、作品発表会と生徒相互による評価会を行う。	○	○		○
	2	1						
	3	2	○最終計画書（自己評価）提出	・最終計画書提出により、自己評価を行う。	○	○		○

校長	教頭	教頭

科目名	家庭基礎			教科・学科名	家庭(生産システム科・電建システム科・総合情報科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	

1 科目「家庭基礎」について

学習の到達目標	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉, 衣食住, 消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 2. 学習した知識や技術を活用し, 家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生を目指し, 生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる
使用教科書	開隆堂「家庭基礎 明日の生活を築く」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生, 生活全般について関心をもち, その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身につけている。	人の一生, 生活全般について見直し, 生活課題を見つけ, その解決を目指して思考を深めている。	人の一生, 生活全般に関する基礎的・基本的な技能を身につけている。	人の一生, 生活全般に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 提出物 平常の学習活動 学習態度 自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> 観察力 発表表現力やレポートの文章表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 発表表現における創意工夫やアイデア 情報収集や調査、観察 	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容、 レポート内容

3. 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

4. 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価方法	100点法	5段階評価
十分に理解できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分に理解できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうちで、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期において当該科目が時数不足になった場合は「評価保留」となり「0」と表記する。

5. 年間学習計画及び評価方法等

評価の観点のポイント・・・a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1 学期	4	1	「家庭基礎」の学び方 第2部 第1章 食べる 1. 食生活の課題 2. 食品と栄養 3. 食品の選択と保存 4. 食事を調える ○調理実習（6回） （1～2ヶ月に一度の間隔で実習を取り入れる。）	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 日常の食生活を振り返る。 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り自分や家族に当てはめる。 青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 	一学期期末考查	○	○		○
	5	6				○	○		○
1 学期	7	6	第1部 第1章 青年期の自立と家族・家庭 1 青年期の自立 2 家族・家庭を考える	<ul style="list-style-type: none"> 各ライフステージの特徴と課題を理解する。 生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択も見通す。 固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 	一学期期末考查	○			○
	7	6				○	○		○
2 学期	9	8	第1部 第2章 子どもの発達と保育 1 子どもの発達と生活 2 子どもの育つ環境	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの育つ力と発達段階を知る。 人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 	2学期期末考查	○	○		○
9	8	○				○		○	
2 学期	9	8	第1部 第2章 子どもの発達と保育 1 子どもの発達と生活 2 子どもの育つ環境	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの育つ力と発達段階を知る。 人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 	2学期期末考查	○	○		○
9	8	○				○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
2 学 期	10	4	第1部 第3章 高齢期の生活 1 高齢者の生活と課題 2 高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会の現状と課題を理解する。 ・ 高齢期の心身の変化や特徴，個人差が大きいことを理解する。 ・ 身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 ・ 高齢者に関する福祉について学び，高齢者を支える制度と課題を考える。 	2 学 期 期 末 考 査	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>
		2	第1部 第4章 共生社会における地域や家族 1 リスクに備える 2 高齢者と子育てへの社会的支援 3 共生社会に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度の理念と内容を学ぶ。 ・ 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ・ 多様な人々のニーズ，ノーマライゼーションの理念を理解し，ユニバーサルデザインを具体的に考える。 		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		8	第2部 第2章 着る 1 被服の機能と着装 2 被服の管理と計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被服のさまざまな役割を整理する。 ・ 被服材料の特徴を理解し，組成表示・取り扱い絵表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ・ 汚れ落ちの仕組みを理解し，被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ・ 生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 ・ 布を使った生活の工夫を知る。 		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	11	6	第2部 第3章 住まう 1 さまざまな住まい方と暮らし方 2 安全で快適な住まい 3 まちづくりと住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ・ ライフステージに合った住居を考える。 ・ 住居を選ぶ際，室内外の環境に着目し，安全性・快適性等を考慮する必要性を学ぶ。 ・ バリアフリーの考え方を理解し，身につける。 ・ 住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し，持続可能な住生活とは何か考える 		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	12	6				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
3 学 期	1	8	第2部 第4章 消費者市民として生きる 1 生涯の経済計画とリスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ・ 生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・ 国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・ 消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。 ・ キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・ 消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。 ・ 大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。 	3 学 期 期 末 考 査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
			2 消費行動と意思決定			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			3 持続可能な消費			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			生涯の生活設計 1 生活資源 2 キャリアを見通す			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
			3 持続可能な社会に向けて			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		2					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

校長	教頭	教頭

科目名	家庭総合		教科名	家庭（商業科・地域産業科）	
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	

1 科目「家庭総合」について

学習の到達目標	<p>1. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。</p> <p>2. 学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。</p> <p>3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>
使用教科書	東京書籍「家庭総合 自立・共生・創造」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生、生活全般について関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身につけている。	人の一生、生活全般について見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力を身につけている。	人の一生、生活全般に関する基礎的・基本的な技能を総合的に身につけている。	人の一生、生活全般に関する基礎的・基本的な知識を総合的に身につけている。
<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 提出物 平常の学習活動 学習態度 自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> 観察力 発表表現における創意工夫やアイデア 発表表現力やレポートの文章表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 発表表現における創意工夫やアイデア 各種機器の活用能力等 調理技術 	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容 レポート内容

3. 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

4. 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価方法	100点法	5段階評価
十分に理解できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分に理解できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうちで、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期において当該科目が時数不足になった場合は「評価保留」となり「0」と表記する。

5. 年間学習計画及び評価方法等

評価の観点のポイント・・・a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント				
						a	b	c	d	
1 学期	4	30	第6章 食生活をつくる 1. 食生活について考える 2. 食事と栄養・食品 3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画 5. 調理の基礎 6. 食生活と文化 7. これからの食生活 ○調理実習（6回） （1～2ヶ月に一度の間隔で実習を取り入れる。）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の食生活を振り返る。 ・ 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・ 日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ・ 食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・ 青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・ 食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ・ 日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようになる。 ・ 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ・ 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 	一学期期末考査	○	○		○	
	5					○	○		○	
	6					○	○	○	○	
	7					○	○	○	○	
			【夏休みの課題】 やんばる弁当甲子園							
2 学期	9	24	第2章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもを育つ力を知る 3 親として共に育つ 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境 ○絵本製作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出産前後の健康管理と子どもの発達の様子および発達段階を知る。 ・ 人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わり方の大切さを学ぶ。 ・ 遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ・ 子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・ 子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ・ 児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 	2学期期末考査	○			○	
	10					○	○	○	○	
	11					○	○		○	
	12	4	第5章 経済生活を営む 1 職業生活を設計する 2 計画的に使う 3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ・ 生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・ 国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 		○	○	○		

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
3 学 期	1	6	4 消費行動と意思決定 5 現代の消費社会 6 消費者の権利と責任 7 これからの消費生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。 キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。 大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。 今までの学習を踏まえ、キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめる。 自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。 	3 学 期 期 末 考 査	○	○		○
	2	2	第9章 生活を設計する 生涯を見通す			○	○		○